

雪まるかじりツアー

12月27日(火) ~ 12月29日(木)

IN 兵庫県立兎和野高原野外教育センター



	午前	午後	夜
1日目	施設に向け出発	雪遊び・かまくら土台作り	班旗作り
2日目	かまくら作り・前半	かまくら作り・後半	七輪ファイヤー
3日目	掃除・そり滑り	全体レク・閉村式	

一日目： バスでの道のりはとても遠く、途中で「雪まだ見えないの?」という声があちらこちらで挙がっていました。しかし施設に到着するとあまりの雪の量に、子ども達は驚きとワクワク感の入り混じった表情をみせていました。昼食後は外で鬼ごっこを行いました。翌日のかまくら作りに向けて、腰まで埋まってしまう程ふかふかの雪で覆われた足元を固めていきました。ウェアに雪が入ろうとお構いなし、普段あまり見ることのできない雪にどのグループも大喜びでした。夜は体育館で班旗作りを行いました。どの班も思い思いの班名をつけ、明日のかまくら作りを念頭に置いた工夫を凝らした班旗が出来上がりました。



二日目： 2日目は朝からひたすら『かまくら』作り。午前中はまず雪を集めて固めることから始まりました。雪をひたすら積んで雪山にし、それを上から踏んで固めていく作業を繰り返します。なかなか進まない作業にどの班も悪戦苦闘していましたが、より大きなものを目指す班、形にこだわる班など、班によって個性が表れていました。また要領がわかってくると、班の中で力の強い子、弱い子それぞれに合った役割を子ども自ら考え、役割分担を行っている姿もみられました。午後は雪山に穴を掘っていく作業でした。踏み固めた雪を掘っていくのはとても力のいる作業ですが、高学年の子を中心に交代しながら掘り進めていきました。掘る作業をしていない間も、1日目の夜の班旗を意識し、その班ならではのかまくらを目指して、雪だるまや階段などの装飾を作っていました。夜は出来上がったかまくらの中で七輪を使って餅やマシュマロを焼き、班で語り合いながら食べました。自分達が必死に作ったかまくらで食べると美味しさも格別らしく、1日の疲れも忘れて夢中で楽しんでいました。



三日目： 朝食を終えて掃除を行い、完了した班から外に向かいました。前日から楽しみにしていたそり遊びはお預け、まずは2日目に作ったかまくらを解体することから始めました。頑張ったかまくらを壊すのは名残惜しいようで、写真を撮ったりみんなで中に入ったりと楽しんでいました。一晩の間、より固められたかまくらを壊すのはとても重労働で、あちこちで弱音も聞こえましたが、なんとかどの班も平地に近い状態まで元通りにすることができました。お楽しみにしていたそり遊びでは、すごいスピードで滑っていく子、すぐにバランスを崩して転がってしまう子などさまざまでしたが、初めてのそり遊びの子も多く、とても盛り上がっていました。その後昼食を終えて体育館でいくつかレクを行い、友達同士の思い出作りをしていました。帰りのバスはくたくただったのか、ほとんどの子が爆睡状態で家路につきました。



<キャンプ総括>

今回のキャンプでは、かまくら作りをメインプログラムとしていました。かまくら作りは普段なかなかする機会がないことから、雪の状態や子ども達がどこまで出来るのかもすべて手探りだったので、すべての班がかまくらを完成させられることを当初目標としていたのですが、出来上がってみるとどの班のかまくらにもその班ならではの個性があることに驚かされました。班員全員が入れる大きなかまくらや、庭付きのかまくら、滑り台のついたかまくらなど、どの班も班旗に描いたかまくらを元に、発想を広げ、オリジナルのかまくらを造り上げていました。彼らはまだまだ小学生や中学生ではありますが、「せっかく作るならただのかまくらでは終わらせない!」という意気込みが生み出す発想力 や行動力は私の想像を大きく超えていました。“やってみればできる”ということ子ども達自身も実感した3日間だったのではないかと思います。(岡田 早百合)